

令和3年度

鹿児島県農業大学校評価シート

目標	課題	現状	評価項目	具体的方策	進捗状況(実績)	次年度の課題と改善策
1 入学生の確保	学生募集活動の強化による入試応募者の確保	<ul style="list-style-type: none"> 社会情勢の変化、高校生の絶対数の減少等により、応募者が減少している。 養成部門の入校者の定員充足率は、74.3%である。 令和3年度(1年生) 78% 2年度(2年生) 69% 応募者数の推移(定員115)(推薦+一般) 令和3年度 114人 2年度 98人 平成31年度 99人 30年度 121人 29年度 95人 	入学試験の応募者数	1 学校紹介と学生募集活動の展開 <ul style="list-style-type: none"> 高校訪問 90回以上 高校等への募集要項送付 160カ所 高校教諭対象の説明会の開催 1回 農大生の出身校への訪問 10校10人 随時訪問、及び学生の派遣 進路ガイダンス等への参加 15回以上 教育内容紹介資料等の充実 マスコミ、機関誌等への情報掲載 30回以上 小中高校生を対象とした体験研修の実施 参加者50人以上 校外販売実習等を通じた学校紹介 出前授業の実施 学部・学科別による募集働きかけの検討 	1 学校紹介と学生募集活動の展開 <ul style="list-style-type: none"> 高校訪問 100回 高校等への募集要項送付 171カ所 高校142校、個別29カ所 高校教諭対象の説明会 1回 農大生の出身校への訪問 8校8人 夏休みや冬休み等を活用しPR 進路ガイダンス等への参加 29回 学科の取組紹介資料、募集チラシを作成し活用・配布 マスコミ、機関誌等への情報掲載 学校PRやチラシ等による学生募集案内 28回 小中高校生を対象とした体験研修の実施 参加者50人 校外販売実習等を通じた学校紹介 学生のイベント等参加によるPR 5カ所延べ7日 出前授業の実施(中止) 学部・学科別による募集働きかけ 進路ガイダンスでのヤンマー学生懸賞受賞等のPR(畜産)、農大農産物の販売での農学部広報の強化を検討 	1 高校等への早期の情報提供 <ul style="list-style-type: none"> 農業高校への入試及びオープンキャンパス情報を3月中に提供し、例年6月に実施していた校長訪問を4月に実施する。 高校・農大連絡会議及び県内高校教諭を対象とする学校説明会の開催時期を早める。 2 その他募集活動展開 <ul style="list-style-type: none"> 学生のイベント等参加による学校PR活動を強化する。 学部ごとの募集の取組を強化する。
				2 オープンキャンパス等、受入による学校PR <ul style="list-style-type: none"> オープンキャンパスの実施 参加者150人以上 オンラインによる対応の検討・実施 高校等の視察研修の受入 園児や小中高校生等の視察、実習等の受入 	2 オープンキャンパス等、受入による学校PR <ul style="list-style-type: none"> オープンキャンパスの実施 参加者91人 コロナ禍のため2回中止、1回の開催 ミニオープンキャンパス(個別対応)の実施 2組 5人 オンラインによる実施はなし 高校等の視察研修の受入 延べ7校243人 園児や小中高校生等の視察、実習等の受入 3組146人 	2 オープンキャンパスや視察研修参加者の確保 <ul style="list-style-type: none"> 広報の機会を捉えオープンキャンパス開催をPRする。 状況によってはオンラインで実施する。
				3 地域振興局や同窓会との連携 <ul style="list-style-type: none"> 地域振興局等への情報提供の充実 オープンキャンパスや募集要項等の配布、学校情報の提供 離島での進路ガイダンスへの対応協力 農大アシスターへの情報提供 農大職員OB教諭への情報提供 	3 地域振興局や同窓会との連携 <ul style="list-style-type: none"> 地域振興局等への情報提供の充実 オープンキャンパス、募集要項、募集チラシ送付及び所内会への情報提供 計8回 離島での進路ガイダンスへの対応協力 6回 農大アシスターへの情報提供 2回 農大職員OB教諭への情報提供 1回 	3 農政普及課等との連携強化 <ul style="list-style-type: none"> 農家子弟への情報提供や離島での進路ガイダンスへの協力を依頼する。

<自己評価まとめ>

学生確保に向けた取組について、コロナ禍の影響を受け実施できなかった行事もあったが、学校訪問や関係機関との連携による募集・周知活動については、ほぼ計画どおり実施できた。評価指標である試験応募者数は、目標を下回る結果となったが、次年度対策として、校長や担任等による学校訪問、農高との連携会議の早期実施、学部独自の募集活動、オンライン等も活用したPR活動の強化など、より一層、募集活動に取り組むこととした。

評価指標

評価指標	目標	実績	達成度
1 入学試験応募者数	104人以上	76人 推薦 45人 一般 31人	C (73%)

達成度

- A: 100%以上
- B: 100%未満~80%以上
- C: 80%未満~60%以上
- D: 60%未満

令和3年度

鹿児島県農業大学校評価シート

目標	課題	現状	評価項目	具体的方策	進捗状況 注：() 昨年度実績	次年度の課題と改善策
2 学生教育の充実	学生の知識・技術向上	非農業系高校出身者、非農家等の学生が増えてきており、農業に関する基礎知識に格差がみられる。 コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力が不足している学生が多い。	課題解決能力向上 資格取得への取組	1 学習能力向上への取組 (1)プロジェクト学習に対する学生の意識付けと指導強化	1 プロジェクト意見発表等への取り組み 全国大会 養成課程 プロジェクト発表：優良賞（特別賞） 意見発表：優良賞（特別賞） 研究過程 プロジェクト発表：特別賞（最優秀賞）	1 4年連続全員入賞の快挙を達成。 次年度は最高賞を受賞できるよう指導強化を図る。 2 論文の部において特別優秀賞及び優秀賞を受賞。作文でも銀賞及び銅賞を受賞した。次年度以降も維持できるよう指導強化を図る。 3 合格率100%を目指す。 4 資格数は昨年度とほぼ同様で目標は達成した。 5 危険物乙4類の合格率が上昇したものの、他はやや低下した。簿記は1年次から取り組むことで受験機会を増やす。 6 比較的、高評価は得られたものの、要努力の層の低下を目指す。 7 新型コロナウイルス感染症の影響で、積極的なコミュニケーションは難しい面もあるが、少ない機会を生かす。 スピーチ等でコミュニケーション能力のアップを図る。
				(2)論文作文コンクール応募への誘導、動機付けの強化 ・校内の応募者を増やす取組として、入学当初から、学生全員に対する作文指導や少数精鋭に対する個別指導を実施。	2 論文作文コンクール応募及び入賞数 (1)第32回ヤンマー学生懸賞論文・作文 論文の部：応募数 2 (7) 入賞者 2 (3) 作文の部：応募数 8 (6) 入賞者 5 (2) (2)毎日農業記録賞：応募数 0 (1) 入賞者 0 (1) (3)酪農の夢コンクール：応募数 1 (0) 入賞者 1 (0)	
				(3)専攻学習や各講義による農業技術検定3級の取得 ・農業に関する基礎知識の強化	3 令和3年度卒業生の日本農業技術検定3級合格率 合格者数 35名÷受験者数 38名＝合格率 92% (92%)	
				2 各種免許、資格取得への取組 (1)資格取得の推進と意識付けの強化 ・農大マイスター顕彰制度の周知と学生集会等における学生表彰 (2)職員による希望学生に対する補習（危険物乙4）	4 各種免許・資格取得状況 延べ合格者数 903 名÷卒業生 79名 ＝1人当たり 11.4資格 (12.2) 5 合格率向上対策 (1)危険物乙4類講習会の実施（有資格者による） (2)農業技術検定、農業簿記：カリキュラムによる実施 合格実績 危険物乙4 (3回分)：23名/79名(延べ)＝29.1% (14.3) 農業技術検定3級：73名/82名＝89% (92) 農業簿記検定2級：0名/5名(延べ)＝0% (8.7) 農業簿記検定3級：14名/44名(延べ)＝31.8% (46.7)	
				3 農家留学研修事前指導 (1)専攻学習を通じて基本的な管理作業習得 (2)農家留学研修の事前研修会の実施 (3)農家留学研修日誌の模擬記帳指導及び農業機械操作の習熟度アップ	6 受入農家を招いての農家留学研修事前研修会（中止） ・事前研修（共通1日、各学科研修を実施） ・農家留学研修評価 優秀 57% (67%)、普通 35% (28%)、 <u>要努力 8% (5%)</u>	
				4 コミュニケーション力のアップ (1)各種販売等で挨拶や礼儀作法、接客能力の取得 (2)3分間スピーチ等でコミュニケーション能力の取得	7 校内販売等の実施 (1)校内販売実施数：35回 (32回) (2)出張販売実施数：8回 (4回) 8 3分間スピーチ実施学科 (1年生) (野菜科、肉用牛科、酪農科)	

<自己評価まとめ>

全国プロジェクト発表会や論文等コンクールにおいて、優秀な成績をおさめるとともに、資格取得など、設定した評価指標については、ほとんどの項目について、計画を上回る実績をあげることができた。次年度も、引き続き、学生の積極的な知識・技術向上に向けた取組を促進するとともに、唯一、目標達成できなかった農家留学研修においては、事前研修の充実を図るなど研修評価の向上を目指す。

評価指標

評価指標	目標	実績	達成度
1 全国プロジェクト発表会入賞者	2名以上	3名	A
2 ヤンマー懸賞論文等入賞者	2名以上	8名	A
3 日本農業技術検定3級合格率	80%	92%	A
4 各種取得免許・資格数	1人当たり11.4資格以上	11.4資格	A
5 農家留学研修評価書の総合評価（優秀）	70%以上	57%	B

達成度

A：100%以上
B：100%未満～80%以上
C：80%未満～60%以上
D：60%未満

令和3年度

鹿児島県農業大学校評価シート

目標	課題	現 状	評価項目	具体的方策	進捗状況(実績)	次年度の課題と改善策																																														
3 就農・就業の進路指導の充実	進路指導充実による就農率の向上	<p>・農大の目的を達成するために就農率を高めることが必要である。 就職、法人就農について自分の適性や進路決定に迷うことがある。</p> <p>・インターンシップなどを活用して就農先を確定するなど、非農家学生の取り組みを強化する必要がある。</p> <p>・農業次世代人材投資資金受給希望学生の進路に応じて、資金制度の理解や個別指導を実施する必要がある。</p> <p>過去5ヶ年の就農率(%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>直接</th> <th>研修後</th> <th>小計</th> <th>就農率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>57(7)</td> <td>7</td> <td>64</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>52(3)</td> <td>3</td> <td>55</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>57(2)</td> <td>2</td> <td>59</td> <td>69</td> </tr> <tr> <td>R 1</td> <td>55(14)</td> <td>1</td> <td>56</td> <td>62</td> </tr> <tr> <td>R 2</td> <td>53(16)</td> <td>0</td> <td>53</td> <td>66</td> </tr> </tbody> </table> <p>※()はうち自営・親元就農</p> <p>インターンシップ先に就職した学生</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>インターン</th> <th>農家留学</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>13</td> <td>8</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>20</td> <td>2</td> <td>21</td> </tr> </tbody> </table> <p>※合計は実人数</p>	年度	直接	研修後	小計	就農率	H28	57(7)	7	64	70	H29	52(3)	3	55	60	H30	57(2)	2	59	69	R 1	55(14)	1	56	62	R 2	53(16)	0	53	66	年度	インターン	農家留学	合計	H30	13	8	19	R1	9	9	14	R2	20	2	21	<p>R4. 3. 1現在</p> <p>○就農率 (研究科含む) 学生数 81名 うち就農 59名 72.8%</p> <p>○進路確定率 学生数 81名 確定数 81名 81名/81名=100%</p>	<p>1 進路への早期動機付け (1) サポート体制の充実</p> <p>①農業法人等との面談の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就農就業相談会 ・個別面談の推進 ・かごしま就農就業相談会 <p>②進路決定に対する意識啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路支援セミナー ・就職研修会、ジョブサポーター面談 <p>③農業次世代人材投資資金活用指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資金研修会による理解促進 ・申請時、給付後の個別指導 <p>(2) 早い段階での学生の就農・就業に対するイメージ作り</p> <p>①意向調査、面談の実施</p> <p>②求人内容等の情報提供</p> <p>③就職・就農事前研修会</p> <p>④休業期間中のインターンシップ</p>	<p>①就農就業相談会 R3. 7. 21</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業法人：34社参加 ・関係機関・団体（振興局等）：16団体参加 ・法人訪問学生数 延べ504名 10.1名/法人 (夏期休暇前に法人との個別面談、<u>インターンシップ</u>を推進) ・かごしま就農就業相談会（新型コロナ拡大により中止） <p>②進路決定に対する意識啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路支援セミナー 2/14 1年生86名 ・就職研修会 11/30 1年生87名 <p>③農業次世代人材投資資金活用指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会3回 5/6(44名), 12/23(18名), 2/7 ・新規申請者 1年生22名, 2年生1名 ・継続指導 2年生24名 個別指導47名 <p>①②面談等により、進路希望を確認し、学生・保護者に対する法人等の紹介、雇用条件等の情報提供を随時実施した。</p> <p>③全学生を対象に学科毎に実施</p> <p>④インターンシップ実施状況</p> <p>4～7月 農学部2名, 畜産学部9名 計11名 夏期休暇 農学部5名, 畜産学部16名 計21名 9～12月 農学部4名, 畜産学部2名 計6名(実人数37名) ※インターンシップ先との就業内定 20名(農4, 畜16) ※農家留学先との就業内定 6名(畜6) (インターンシップ先との重複4名を含む) ※合計(実人数)22名</p>	<p>・就農相談会の開催時期を早め、法人との面談を効果的に行い、早期の進路決定、また農業法人との交流促進につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年時からセミナー等で進路への意識付けを継続的に行う。 ・学生の早期の進路決定を促進するため、面談や雇用条件等の情報提供を強化する。 ・就業希望の学生へインターンシップ支援、農家留学研修でのマッチング、法人の情報収集等を実施し、学生の就業に向けての意識高揚を図る。
			年度	直接	研修後	小計	就農率																																													
			H28	57(7)	7	64	70																																													
H29	52(3)	3	55	60																																																
H30	57(2)	2	59	69																																																
R 1	55(14)	1	56	62																																																
R 2	53(16)	0	53	66																																																
年度	インターン	農家留学	合計																																																	
H30	13	8	19																																																	
R1	9	9	14																																																	
R2	20	2	21																																																	
			2 就職試験に対する指導強化	<p>(1) 一般常識トレーニング(1年生)</p> <p>(2) ビジネスマナー講座</p>	<p>(1) 一般常識トレーニング研修(1年生)</p> <p>通信教育を活用した一般常識の習得 (10/27, 11/10, 11/27, 12/20, 1/15, 2/26:6回) 1年生12名(果樹科9名, 野菜科3名)</p> <p>(2) 接遇研修会として11月4日実施(1年生87名参加)</p>	<p>・進路指導で学生の希望を確認し、引き続き研修参加を呼びかける。</p>																																														
			3 経営基盤のない新規就農希望者の支援体制の強化(非農家等)	<p>(1) 就農就業相談会等による地域との連携</p>	<p>(1) 就農相談会等による地域との連携</p> <p>各振興局及び駐在から就農就業担当者が出席し、管内の農業情勢等について情報提供と相談実施 (離島を除く11地域13名参加)</p>	<p>・学生の就農計画に基づき関係機関との連携を支援する。</p>																																														

<自己評価まとめ>

農大での相談会の実施や、1年時からの意識啓発など、体系的な取組により、評価指標である就農率、卒業時の進路確定率について、どちらも目標値を上回った。次年度においても、意識づけのための面談や相談会の実施など継続して取り組むとともに、インターンシップ等による農業法人等とのマッチング促進、地域振興局等と連携した就農支援、就職試験に向けた研修充実など、卒業時の円滑な進路決定を目指す。

評価指標

	目 標	実 績	達成度	達成度
1 就農率	68%	73%	A	A : 100%以上
2 卒業時点での進路確定率	95%	100%	A	B : 100%未満～80%以上 C : 80%未満～60%以上 D : 60%未満

令和3年度

鹿児島県農業大学校評価シート

目標	課題	現状	評価項目	具体的方策	進捗状況(実績)	次年度の課題と改善策
4 情報発信の強化	入学確保のターゲットとなる若い年齢層に、魅力ある農大を発信	<ul style="list-style-type: none"> 農大のHPは、県の様式で作成されており、学生の農大での活動情報が少ない。 HPに学生のいきいき活躍する画像が少ない。 果樹科は、Instagram(以下、In)、Facebook(以下、FB)を活用して果樹科学生の活動を情報発信している。(果樹科R3は定員充足)。 九州各県では、沖縄県を除くすべての農大がFB、Inに取り組んでいる。 アシスターレターを卒業生等に配信して、農業大学校の活動を紹介している。 「農大この一年」を印刷して、関係機関や高校等に配布して、農業大学校の活動を紹介している。 令和3年度農大魅力アップ・情報発信事業でPR動画、パンフレットを作成する計画がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ホームページ閲覧者数 3,500回/月以上 ②公式Instagramフォロワー数 200名以上 ③農大紹介ビデオ活用数 20回/年間 <p>指標設定の根拠</p> <ul style="list-style-type: none"> ①R2閲覧数3,345回/月と同等以上とした。 ②果樹科Instagramフォロワー数と同等以上とした。 ③オープンキャンパス等、学校紹介の機会を利用した活用を目標に設定した。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 鹿児島農大ホームページの魅力アップ <ul style="list-style-type: none"> (1)若い人に農大に関心を持って閲覧してもらえるHPの構成にする。 (2)動画や画像を活用して農大の魅力や学生のいきいきとした学習状況を伝える。 (3)関係機関のHPに農大HPのリンクを貼って、検索しやすくする。 2 SNSを使って情報発信・PR <ul style="list-style-type: none"> (1)HP様式では情報発信が難しい学生の活動や学習状況は、SNS(In)で農大の魅力を発信する。 (2)公式農大Inに取り組む。(Inは、若い年齢層の利用が多い) <ul style="list-style-type: none"> ①SNS運用指針をR3に作成し、情報発信する体制を構築する。 指針の内容(リスク管理、対応する職員、情報の収集、学生の参加、情報内容の確認) ②SNS担当者は、知識・技術等が必要なため、研修を行って、各部に担当者(3名)を配置し、SNSを管理する。 ③Inは、専用端末を使用し運用する。端末と通信に係る予算は別途確保する。 ④7学科(+研究科)の情報を交互に配信する。また、教務指導課で主要な行事は配信する。 3 農大情報誌(メールマガジン)の閲覧者を増やす。 <ul style="list-style-type: none"> (1)農大情報誌(「アシスターレター」や「農大この一年」として、HPに掲載することで、若い年齢層に見てもらおう。(プロジェクト内容・意見発表等) 4 農大紹介ビデオ等の作成と活用による情報発信 <ul style="list-style-type: none"> (1)PR動画や画像による情報を発信し、スマート農業などの新たな取組みを紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)HPの構成検討 HPの構成を変更し、農大紹介動画や学部情報が検索しやすい構成に変更。 (2)動画や画像活用による掲載 かごしまLOVEITチャンネル(広報課新事業)、魅力ある農大PR動画を新たに掲載(YouTubeリンク) (3)検索の効率化 農大Inから、HPにURLを掲載した。 HP閲覧数:最大5月4494、最小2月2807、平均3393 HP部門別閲覧数 ①校内販売②質問農大全体共通③肉用牛 (1)鹿児島県立農業大学校Inアカウント運用ポリシーとIn運用方針(ガイドライン)を作成し、7/31県公式農業大学校Inを開設し、Inによる農大の情報を発信している。肉用牛科、酪農科、養豚科の各学科のInと併せて学生の活動状況の情報発信を行っている。 (2)農大公式Inと発信回数と分析値(3/31時点)。 県公式農大Inの発信、リアクションの状況 (年間投稿数 70回 フォロワー数462人 Inライブ3回) 農大Inライブ3回(野菜科プロ発表会、全国プロ、卒業式) 農大In最大フォロワー以外の割合 40%(校内プロ) 農大In最大インプレッション数 956(果樹科加工) 農大In最大リーチアカウント数 552(果樹科加工) 農大In最大いいね数 87(卒業式桜) 3 農大情報誌(メールマガジン)の有効活用 <ul style="list-style-type: none"> (1)「アシスターレター」第50号、第51号をHP上で公開し、アシスターへ掲載したことをメールで通知。 (2)「農大この一年」をHP上で公開し、関係機関へ掲載したことをメールで通知。 HPへの公開で、情報誌等が、関係機関以外の入学希望者や一般県民の方が、閲覧ができるように改善した。 4 農大紹介ビデオの作成と活用による情報発信 <ul style="list-style-type: none"> (1)学生自治会(7名)と意見交換会を行い、学生の意見が反映されたPR動画を作成した。(かごしまLOVEIT!) (2)12月:かごしまLOVEITチャンネルYouTube再生回数180(3/31) 3月:魅力ある農大PR動画 YouTubeで情報配信 YouTube再生回数 153(3/31) (3)3月PR動画を高校ガイダンス・学校訪問で活用(福山・大口・枕崎・国分中央各高校) 	<ul style="list-style-type: none"> ①HPの検索数を増やす。 HPの定期的な更新と教育部門だけに限らず、研修部門を含めた情報発信を行う。 ②Inを使って、農大をリアルタイムで情報発信を行う。(各学部月2回以上情報発信) ③Inフォロワーを増やす。(800名) 対策:在校生・入学生のInフォローから後輩、保護者への拡大をお願いする。 ④定期的な電子媒体による情報発信 ⑤小中高生向けの農大紹介にPR動画を活用する。(リモート・学校訪問等を含む)

<自己評価のまとめ>
 農大公式Instagram発足や、新たに作成した動画をホームページで情報提供するなど、農大の魅力について情報発信につとめた。コロナ禍で視察受け入れの減少等もあり、ビデオ活用数は目標に届かなかったが、Instagramフォロワー数は目標値を大きく上回り、ホームページ閲覧者数もほぼ目標値と同程度となり、一定の情報発信はできたと考えられる。次年度も、情報の充実化とこまめな情報更新を行いながら、継続して農大の魅力アップにつながる情報発信の強化につとめる。

評価指標	目標	実績	達成度	達成度
1 ホームページ閲覧者数	3,500回/月以上	(3393)	B	A: 100%以上
2 公式Instagramフォロワー数	200名以上	(452)	A	B: 100%未満~80%以上
3 農大紹介ビデオ活用数	20回/年間	8回/年間	D	C: 80%未満~60%以上 D: 60%未満